

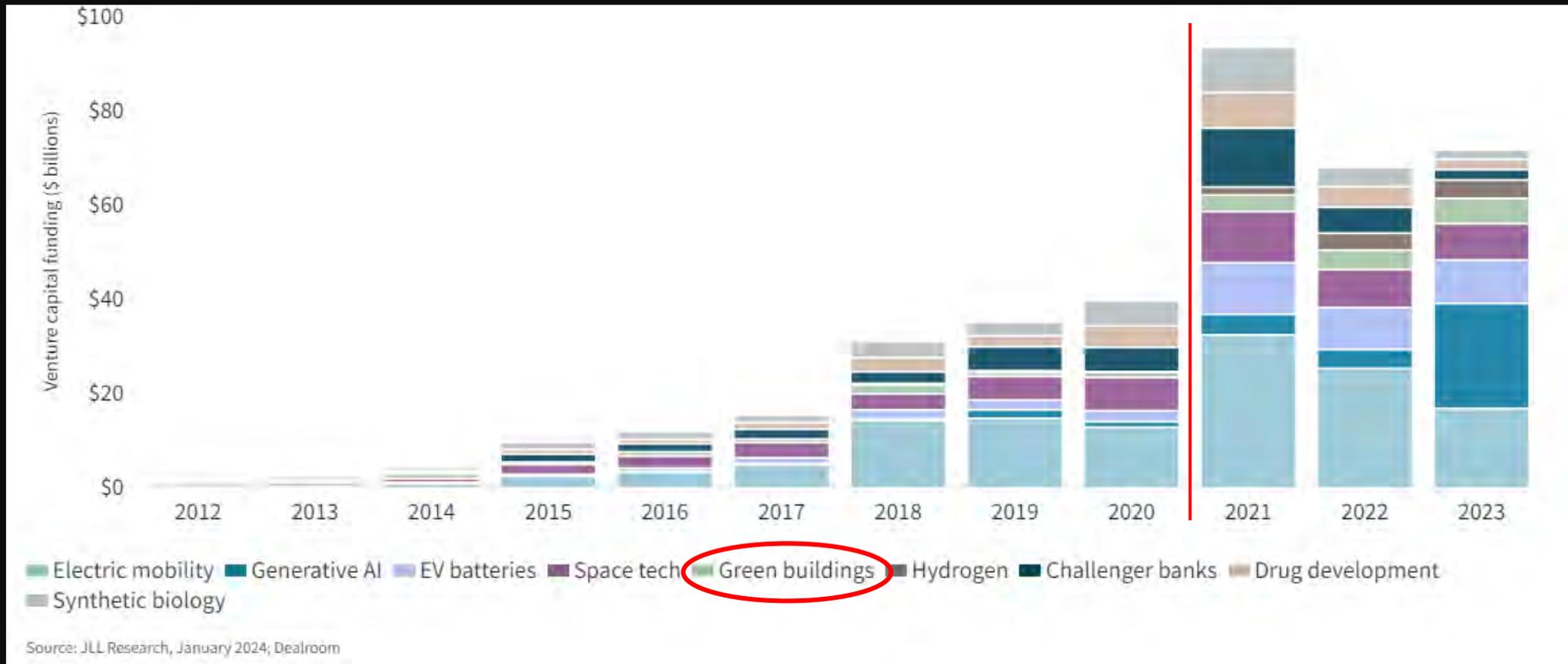
都市と建築のグリーン化 新たなまちづくりのビジョン

オープンイノベーションの見地から

齋藤敦子 KOKUYO / Future Center Alliance Japan / GBJ運営委員

グリーンビルはイノベーションの成長分野

コロナ以降は新しいテクノロジーへの資本注入が進み、医薬品、合成生物学、電動モビリティ、水素、バッテリー、**グリーンビルディング**、宇宙技術、などの分野が成長し、投資額は2020年以降2倍を超える。



個人と社会課題の距離感

- ・カーボンニュートラル
- ・生物多様性
- ・気候変動対策
- ・循環型社会
- ・ . . .



コモン／公共財としての自然

北欧では、自由に自然の恩恵を受けられる「**自然享受権**」がある。

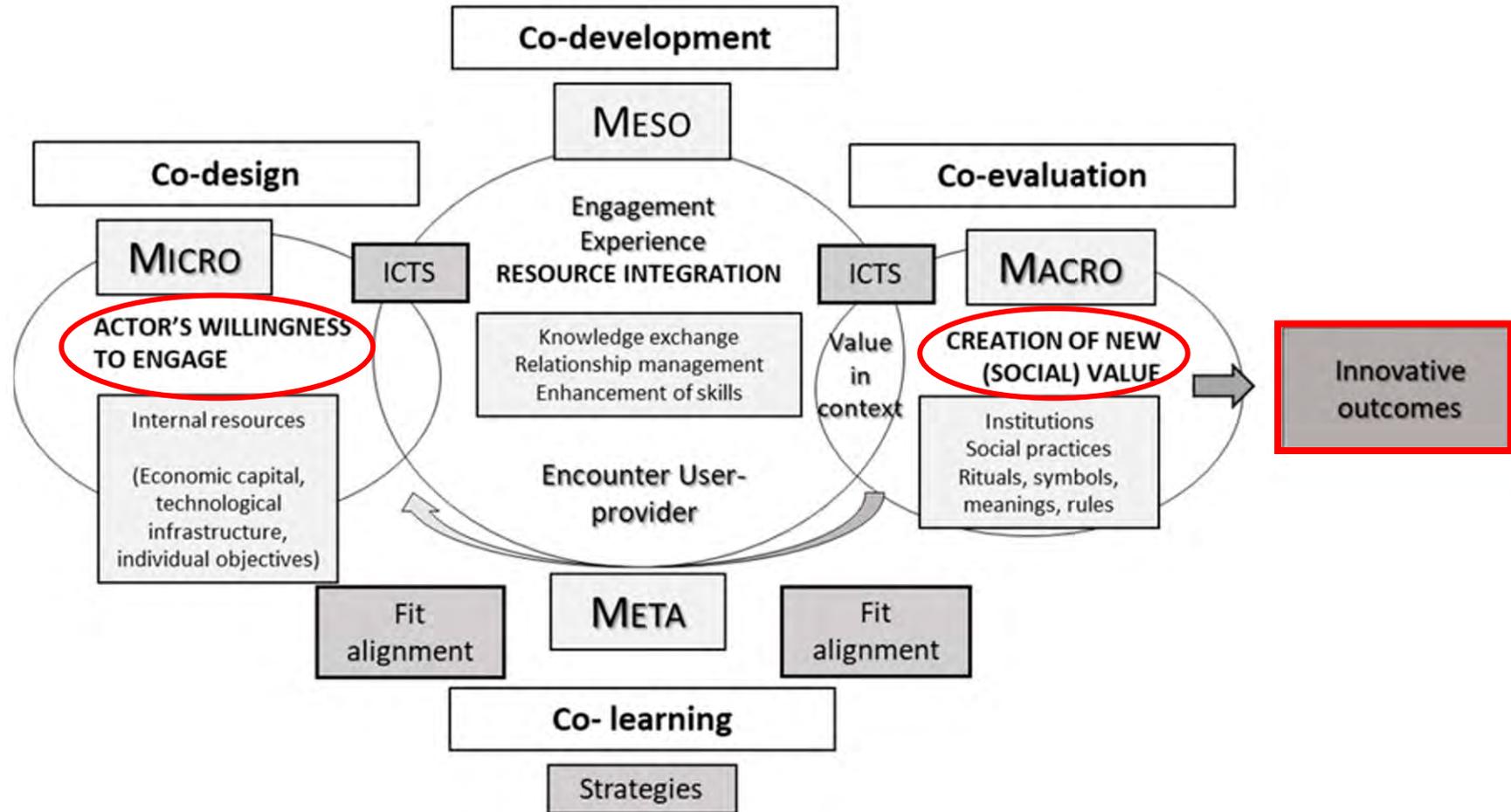
自然保護区や畑・牧草地以外であればどこでもキャンプができ、ハイキングやカヌーなどのアウトドアアクティビティを楽しむことができる（ルールはある）。

また、ベリーやきのこを採取することが**生活の喜び**。

未就学の子どもの中から「森の学校」で学び、**自律性**が育まれ、**自然をすべての人と平等に共有**するという感覚をもつ。



個人=ミクロ と 都市計画=マクロのつながりによるイノベーション



アートによる意識変容



**「ごみ」を違ったものとして
見せられることで、
日常の行動のなかにも
新たな発見がもたらされる可能性。**

16本のロープ イリヤ&エミリア カバコフ

持続可能なまちづくりに欠かせない「場」

人と人の新たな関係性から、ソフトや運用のアイデアを生み出し、社会実装する



こまつしまLL



あやセンター ぐるぐる



coconova

リビングラボ（マリンテレイン：アムステルダム）



世界中の都市が抱える問題を実際の都市空間で社会実験を行い、ソリューションを実装する場。スマートアーバンモビリティ、食料システム、都市エネルギー、都市のデジタル化、循環性・気候変動へのレジリエンスがテーマ。

アムステルダム市、ビジネス省、複数の大学により設立された官民間AMSが運営。敷地内にはラボ施設、ホテル、住居、公園などがある。

●イノベーションパビリオン：バイオ材料で出来た建築



●Roboat：世界初の完全自律型自動運転ボート



リビングラボ（マリンテレイン：アムステルダム）

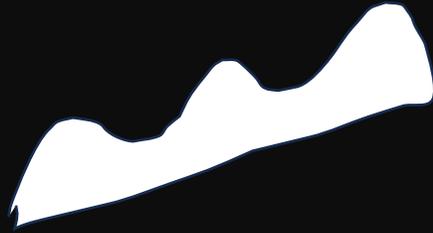


- ①条件に合えばだれでもリビングラボを使える
- ②リビングラボにとって有益な実験を優先
- ③実験者自身が資金調達
- ④高い可能性を備えた実験か？（アムステルダムに関連する提案を優先）
- ⑤サイト利用料はハードルを下げる
- ⑥実験の結果は公表（知財尊重の上）
- ⑦多様な分野、市民を巻き込んだ活動
- ⑧テストを実施できる屋外エリアは陸と水域の指定エリア



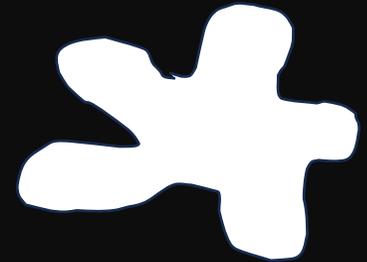
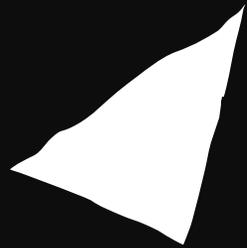


関わりしろをつくる



関わりしろをつくる

ハード & ソフト



まちに開く 働く人の経験拡張の場 THE CAMPUS



写真提供：コクヨ